

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 8 月 31 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26285040

研究課題名(和文)人間・国家・国連 - 『平和のための装置』の史的展開と将来展望

研究課題名(英文)Human, State, the UN: Historical Development as an Instrument for Peace and its Future

研究代表者

星野 俊也 (Hoshino, Toshiya)

大阪大学・国際公共政策研究科・招へい教授

研究者番号：70304045

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,900,000円

研究成果の概要(和文)：加盟国政府間の政治的な集団意思決定・集団安全保障機関として国連がどれほど人間(個人や集団)の生存・生計・尊厳を保護・伸長しえたのかを検討する本研究の成果に、2015年の国連創設70周年と2016年の日本の国連加盟60周年の節目を挟み、強権的な国家から脆弱な人々を保護する規範や国連の役割の拡大という当初の研究項目に加え、グローバル化や科学技術の飛躍的な発展による非国家主体(国際テロ組織や暴力的過激主義組織を含む)の抑制と国家・政府のレジリエンス(しなやかな強靱性)確保による人間の安全保障の強化の必要も組み入れ、グテーレス新国連事務総長の改革や日本の国連政策の在り方に一定の提言をまとめた。

研究成果の概要(英文)：This study examined how much the United Nations, as an intergovernmental organ of political decision making and inter-state collective security has helped contribute to the advancement of survival, livelihood, dignity of people (individuals and communities). Adding the new discussion at the 70th anniversary of the UN and the 60th anniversary of Japan's admission the UN, the study identified, ironically, both the need to contain the rise of non-state, i.e. human-based terrorists and violent radicalism groups and to reinforcing the resilience of state and government apparatus as well as expanding the norms and practices of protecting vulnerable people from dictatorial states, to promote human security interests as a set of policy recommendations to Japan's diplomacy at the UN and to new UN Secretary-General's reform agenda.

研究分野：国際関係論

キーワード：集団安全保障 人間の安全保障 暴力的過激主義 国家主権 レジリエンス

1. 研究開始当初の背景

国際連合は第二次世界大戦後の「国際の平和と安全の維持」、すなわち、国家（政府）間の戦争（究極的には「第三次世界大戦」）を防止するための集団安全保障機構として設立された。だが、創設から70年、日本も国連に加盟して60年が経つなか、研究開始当初の背景として、世界秩序の根底を揺るがす大きな変化を見出すことができた。

第一は、紛争の形態が国家間だけでなく国内のコミュニティ（民族・宗教・文化等の違いに基づく人々の集団）間でも頻発するようになったこと。第二は、基本的な人権の尊重といった概念を超えて、「人間の安全保障」や「保護する責任」、「持続可能な開発目標（「誰一人取り残されない」がキーワード）など、人間の生存・生計・尊厳を客体とする理念が一定程度、国際社会のナラティブのなかで主流化が進むようになってきたことも注目された。

こうした変化を踏まえ、国連が国家中心の国際機関でありながら、どれほど「人間」を対象に、その生存・生計・尊厳を守ることができたのかは国連の政策史を振り返るうえでの新視角として取り込み、政府間機関としての国連の今後の役割の可能性を見極めたいという問題意識から本研究は始動した。

2. 研究の目的

本研究は、2015年に創設70周年となる国連政策の史的展開を、人間の生存・生計・尊厳がいかなる形でどれほど保護・伸長されてきたかという新たな視点から再検証するとともに、「国際（国家間）の平和」と「人間の安全」の両立に向けた将来の国連政策のあり方を展望することを目的とする。

政府間国際機構としての国連の主要な機能は集団的な国家の安全保障を通じた国際秩序の維持である。だが、本来、人間あつての国家であるならば、各時代のニーズに対応し、国連が集団的に人間の安全保障利益を増進する「平和のための装置」として機能することも求められているはずである。

そこで、本研究では、国連に関する実務と研究の知見を融合し、国連政策が、軍事と非軍事の両領域でどれほど「人間の平和（＝自由の確保・拡大）」を追求しえたのか、国連加盟国において国家の利益と人間の利益が対立した際にその克服はいかに試みられた（または、顧みられなかった）のか、将来の国連においてこれら二つの利益の調和と両立はいかにして可能となりうるのか、通史的・俯瞰的・立体的な視点で分析することとした。

3. 研究の方法

国連実務経験者と国際政治学、国際法、国際関係史のバックグラウンドを持つ共同研究者の間で過去70年の国連外交の流れを振り返り、現行の国連憲章における主要な目的

概念である「国際の平和と安全の維持」と、本研究課題を通じて新たに提起した国際社会における「人間の平和と安全の前進」概念の定義や、政策手段としての「平和のための装置」概念の精緻化及び基本認識を行う。そのうえで、現地調査を積極的に実施し、国連の主要な活動領域である平和協力活動、開発協力活動、人権支援活動の各分野の政策実施の状況について、研究者と実務者の双方より意見聴取を行い、資料・情報の収集を行うことに重点を置いた。

4. 研究成果

加盟国政府間の政治的な集団意思決定・集団安全保障機関として国連が政治の壁を乗り越え、或いは政治の妥協を通じて人間（個人や集団）の生存・生計・尊厳をいかなるかたちでどれほど保護・伸長しえたのかを検討する本研究の成果は、研究代表者及び研究分担者と連携研究者による多数の著作や研究報告が生み出された。（主な発表論文等は5.を参照。）

本研究課題は、2015年が国連創設70周年であり、又、2016年12月の日本の国連加盟60周年という節目と重なった事から、政府や民間団体、学会等の主導する関連行事等でも多く取り上げられ、とりわけ研究代表者は、2015年3月の日本政府主催の国連創設70周年記念シンポジウム（安倍総理及び潘国連事務総長が出席）、同年10月の京都国際連合協会主催シンポジウム（成果は公刊済）、2016年3月発行の国際安全保障学会機関誌「日本と国連の60年」特集号（本研究代表者が編集責任者）等で研究成果を報告している。

また2017年1月からはグテーレス国連新事務総長の誕生やトランプ米政権の発足等新状況も加わった。本研究は、研究代表者が全学の副学長に就任した時期が挟まり、研究の運営に一定の遅れが生じたが、2017年頭からの新たな動きを踏まえた研究を盛り込む事が可能となった。そこでは、強権的な国家から脆弱な人々を保護する規範や国連の役割の拡大という本研究の構想段階から着目していた研究項目に加え、国家・政体の脆弱化やグローバル化や科学技術の飛躍的な発展による非国家主体（国際テロ組織や暴力的過激主義組織を含む）の活性化、国連安理常任理事国の国内政治の国際的な波及等、当初の構想時以上に重要な影響を持ち出してきた動きを加味する一方で、国連が2015年を境に政府間国際機関としての基盤を残しつつも「マルチステークホルダー参加型」の意思決定を主流とし、国家の安全と人間の利益と地球環境の保全とをバランスさせる方向にギアシフトをしはじめた新たなダイナミズムを見出すことができた。また、国連を通じた人々の保護と能力強化に関する政策を促進するためには、国際秩序の安定に必要な国家・政府のレジリエンス（しなやかな強靱性）の確保という政策との調和に向けた日

本の外交政策や新事務総長下での国連改革のあり方を指摘することができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計17件)

星野俊也、日本のODAと『人間の安全保障』、国際問題、No.637、査読有、2014、5-14
国連安全保障理事会と日本 2015

星野俊也、総論：「アクロス・ザ・ユニバース」の安全保障 - グローバル・コモンズにおける「普遍的な平和」とは、グローバル・コモンズ(サイバー空間、宇宙、北極海)における日米同盟の新しい課題、査読有、2015、1-9

星野俊也、国連は「戦後」を超えられるのか - 創設 70 年の変容と展望、外交、査読無、2015、118-125

上野友也、「女性・平和・安全保障」 国連安保理決議 1325 (2000) の履行に向けた制度化を中心に、国連研究、査読有、第 16 巻、2015、65-84

Popovski, Vesselin、' De-Mythologizing Peacekeeping '、Journal of International Peacekeeping、査読有、Vol.19、No.1-2、2015、33-55

Popovski, Vesselin、Legal Remedies for Victims of Natural Disasters、Economy, Culture & History Japan Spotlight Bimonthly、査読有、Issue 204(No. 6, Vol.34) 、2015、8-12

半澤朝彦、国際社会の歴史をどう語るか。公明、査読無、第 119 巻、2015、11-13

Hanzawa Asahiko、Britain's Post-War Empire and " The UN Containment Policy "、国際学研究、第 47 巻、2015、35-63

星野俊也、日本と国連の 60 年 - その成果と展望、国際安全保障、査読ナシ、第 43 巻 4 号、2016、1-7

星野俊也、国連安全保障理事会と日本、修親、査読無、2015 年 1 月号

山田哲也、David Mitrany の「機能主義」再考：1943 年の論考を手がかりに、南山大学紀要「アカデミア」社会科学編、査読無、第 10 号、2016、65-78

上野友也、国連安全保障理事会による文民の保護 シリア難民と国内避難民に対す

る保護、岐阜大学教育学部研究報告(人文科学) 第 64 巻 2 号、2016、41-50

半澤朝彦、音楽と国家、歴史学研究、査読有、943 巻、2016、18-23

Popovski, Vesselin、Innovating the Security Council: 8+8+8 Model、' The Global Community: Yearbook of International Law and Jurisprudence、査読有、Vol.1、2016

Popovski, Vesselin、Maiangwa, B.、' Boko Haram's Attacks and the People's Response: A 'Fourth Pillar' of the R2P norm?' 2016 Africa Security Review、査読有、Vol. 25, Issue、2016、159-175

Hoshino, Toshiya、Japan's Policies on Conflict Prevention and International Peace Cooperation Activities、The Japan Institute of International Affairs(JIIA) Japan and the World, Japan Digital Library、査読無、2017
https://www2.jiia.or.jp/en/pdf/digital_library/world/170317_hoshino.pdf

星野俊也、書評：墓田桂『難民問題』、国連ジャーナル、2017 年春号、2017、56

[学会発表](計11件)

HOSHINO, Toshiya、Intra-State and Regional Conflicts: Enhancing contributions to UN peacekeeping, peacebuilding and humanitarian activities、2014 年 12 月 13 日、The 14th East Asian Seminar on the UN System "The United Nations and East Asia: East Asian Leadership in Addressing Complex Regional and Global Problems、"同志社大学

星野俊也、国連安保理改革はなぜ進まないのか：現状と展望、2014 年 12 月 11 日、OSIPP 創立 20 周年記念講演会シリーズ第 10 回 国際シンポジウム、大阪大学
岐路に立つ国連：改革と刷新の年に向けて 2015

星野俊也、国際経済・外交に関する調査(国際平和と持続可能な国際経済の実現に向けた我が国外交の役割)「核軍縮、国連等我が国マルチ外交の課題と外交力強化に向けた取組」、2016 年 2 月 16 日、参議院国際経済・外交に関する調査会、参議院

星野俊也、積極的平和主義と日本の安全、2015 年 12 月 1 日、第 8 回関西安全保障セミナー-2015、大阪大学中之島センター

上野友也、「文民の保護」は難民を保護するのか 国連安全保障理事会による「文民の保護」とその可能性、2015年11月28日、日本平和学会、琉球大学

星野俊也、『早期の平和構築・人道支援と平和維持活動の協働は可能か?』- 持続可能な平和のために、2015年11月20日、第5回国際平和と安全シンポジウム、防衛省

星野俊也、Can the world be made safer? The UN's Role in Maintaining Peace and Security、2015年6月10日、大阪大学大学院国際公共政策研究科国連政策研究センター国連創設70周年記念特別セミナー、大阪大学

星野俊也、創設70周年の国連とその課題第1セッション「国連が直面する安全保障分野での課題」2015年6月6日、日本国際連合学会第17回(2015年度)研究大会、国立オリンピック記念青少年総合センター

星野俊也、国連と日本の60年 - 未来共生社会の実現を目指して、2016年10月24日、日本の国連加盟60周年事業 国連デー記念講演会、日本国際連合協会北海道本部

半澤朝彦、音楽による平和活動、2016年10月23日、日本平和学会、明星大学

星野俊也、国際平和と日本の国連外交、2016年7月22日、中央電気倶楽部講演会、中央電気倶楽部、大阪市

〔図書〕(計15件)

神余隆博、星野俊也、戸崎洋史、佐渡紀子、安全保障論 - 平和で公正な国際社会の構築に向けて -、信山社、2014、648

武内和彦、大島賢三、星野俊也、ヴェセリン・ポポフスキー、国際書院、環境と平和 - より包括的なサステイナビリティを目指して、2014、152

Popovski, Vesselin, Christopher Hobson, Paul Bacon, Robin Cameron, Routledge, Human Security and National Disasters、2014、196

Popovski, Vesselin, Trudy Fraser, Routledge, Security Council as Global Legislator、2014、

Popovski, Vesselin, Patrick Keyzer, Charles Sampford, Routledge, Access to International Justice、2014、260

牟田和恵、村上正直、大阪大学出版会、改

訂版 ジェンダー・スタディーズ 女性学・男性学を学ぶ、2015、262

初瀬龍平、松田哲、戸田真紀子、上野友也、国際関係のなかの子どもたち、晃陽書房、2015、280

Popovski, Vesselin, Keyzer, P., Sampford, C., Access to International Justice, Routledge、2015、264

神余隆博、星野俊也、中西寛、儀間朝浩他、関西学院大学出版会、日本と国連 - 京都から世界平和を願って、2016、107

星野俊也、大槻恒裕、村上正直、グローバリズムと公共政策の責任 第1巻 平和の共有と公共政策、大阪大学出版会、2016、258

Popovski, Vesselin, Yohan Ariffin, Jean-Marc Coicaud, Cambridge University Press, Emotions in International Politics: Beyond Mainstream International Relations、2016、434

Saikal, Amin, Popovski, Vesselin, Weak States, Strong Societies: Power and Authority in the New World Order, Library of International Relations, I.B. Tauris、2016、288

William Durch, Richard Ponzio, Popovski, Vesselin, Oxford University Press, Just Security in an Undergoverned World、2017、530

John Forrer, Conor Seyle, Edward C. Luck, Tina J. Park, Victor MacDiarmid, Timothy L. Fort, Michelle Westermann-Behaylo, Popovski, Vesselin, Cambridge University Press, The Role of Business in the Responsibility of Protect、2016、240

中嶋啓雄、勁草書房、イギリスとアメリカ - 世界秩序を築いた四百年、2016、332

6. 研究組織

(1) 研究代表者

星野俊也 (Hoshino, Toshiya)
大阪大学・国際公共政策研究科・教授
研究者番号: 70304045

(2) 研究分担者

山田 哲也 (YAMADA, Tetsuya)
南山大学・総合政策学部・教授
研究者番号: 00367640

上野友也 (KAMINO, Tomoya)
岐阜大学・教育学部・准教授
研究者番号: 10587421

半澤 朝彦 (HANZAWA, Asahiko)
明治学院大学・国際学部・准教授
研究者番号：80360882

ポポフスキー ベセリン (POPOVSKI,
Vesselin)
国際連合大学・サステイナビリティ高等研
究所・その他
研究者番号：80647941

(3) 連携研究者

村上 正直 (MURAKAMI, Masanao)
大阪大学・国際公共政策研究科・教授
研究者番号：70190890

中嶋 啓雄 (NAKAJIMA, Hiroo)
大阪大学・国際公共政策研究科・教授
研究者番号：30294169